

2024年度外国語学部FD活動方針・活動計画

(英米学科、スペイン・ラテンアメリカ学科、フランス学科、ドイツ学科、アジア学科)

外国語学部では、2024年度においても引き続き、学部FD講演会・研修会および学部自己点検・評価委員会懇談会を軸としてFD活動を行う。

FD委員会では、2023年度には中京大学国際学部教授の巨理陽一教授をお招きし、「デジタル・テクノロジーと外国語学習：過程にどう関わるか」と題してFD講演会を実施した。本講演は、急速に進展するIT技術を教育現場においてどのように活用すべきかを検討するものだったが、2024年度も引き続きFD講演会・研修会を開催し、新技術の活用の可能性ならびに問題点についてさらに検討を続ける。

学部自己点検・評価委員会懇談会では、カリキュラム改革や教育方法の改善、広報活動および課外活動の充実をめざして学科間の意見交換を行う。全学的に「教学マネジメント指針」に基づく「教育の質保証」のための体制整備が進められるなか、外国語学部においても3つのポリシーの再検討ならびに新たな評価基準や評価方法の検討を行う。

2024年度の各学科のFD活動方針・活動計画は以下のとおりである。

英米学科

- 1) 学科カリキュラムと有機的に結び付けた視点から、長期の派遣留学生数の維持および更なる増加を図る方策の検討を行う。
- 2) 学科必修科目の内容および評価方法の検討の努力を継続する
- 3) 学科の各授業科目をさらに充実したものにするには何が必要か、学科会議などで議論を深めていく。
- 4) 学科運営のための学科内の役割分担の理想的な方法を模索する。
- 5) 講演会の実施
- 6) 英語教員セミナーの実施
- 7) Oral Interpretation Festivalの実施
- 8) 学科が管理するLL施設の学部全体での発展的な形での利用を検討する。
- 9) 学科内ミニFDの実施も含めて、学科内FD活動をさらに充実させる。
- 10) COIL授業やCJSの学生へのオープンコースの開放など、学生が外国人学生と学べる機会を増やすことを検討し、実施する。

スペイン・ラテンアメリカ学科

- 1) 2024年度は、2名の特別任用講師をお迎えする。また1名の教員が長期療養より復職する。新任教員および復職する教員に対しては、学科内で適切なサポートを行い、スムーズに学科業務に入って頂けるよう、学科全体で心がける。2024年度の秋学期からは8名体制での学科運営となる。数の上では近年よりは状況が改善されてはいるものの、引き

続き外国語教育センターとの協力があること、ラテンアメリカ研究センター長が学科教員にいて、1名が秋学期より研究休暇に入ることなどから、引き続き厳しい学科運営になることが予想されるが、新任教員の奮闘に期待したい。

- 2) これまで同様、ラテンアメリカ研究センターと連携を密にし、国内外の優れた研究者・実務家を招いて講演会・研究会を開催し、スペイン語圏に関する相互の意見交換と研究水準向上につなげる機会を持つ。
- 3) 国内外のカトリック大学との教育・研究面での協力・交流関係をさらに広げる。例えば、本学科と上智大学外国語学部イスパニア語学科の間で共同の科目運営ができないかどうか、あるいは、本学のラテンアメリカ研究センターと上智大学のイベロアメリカ研究所・ヨーロッパ研究所との交流を通じた連携が可能であるかどうかの検討を進める。また、輔仁大学（台湾）より教員の招聘を検討する。
- 4) 大幅改訂を行なっている学科の教育指導冊子 *Un, dos, tres al español* を 2024 発行する。その後は、カリキュラムに合わせて微修正していきながら、例年通りの発行スケジュールに戻す。
- 5) 学科必修スペイン語科目、あるいは、その他の言語科目については、引き続き、言語科目コーディネーターを中心に、運営上の微調整を行う。言語科目コーディネーターを中心として、ネイティブ教員に対しては、日常的な意見交換が行なわれているが、このような機会の範囲をより広くできないか引き続き検討する。
- 6) 外国語検定試験（DELE や西検）の受験状況に関する学科学生へのアンケートを 2024 年度は PORTA のアンケートで実施し、受験・取得状況の包括的な把握に努めるとともに、積極的な受験を推奨する。
- 7) 2023 年度より導入された新カリキュラムや科目の開講時期の変更について、その効果について検討する。
- 8) 海外フィールドワークについて、2024 年度も引き続き実施する方向で進める。「海外フィールドワーク B」（メキシコ）は、残念ながら 2023 年度は不開講となってしまったが、2024 年度については実施できる見込みである。新たな海外フィールドワークを模索するという意味で、上智大学外国語学部イスパニア語学科とジョイントで「海外フィールドワーク B」（コロンビア）の、2024 年度実施を目指している。スペインでの「海外フィールドワーク A」についても、例年通り実施する方向で調整する。
- 9) 学外におけるスペイン語やポルトガル語のスピーチコンテストは、学生への周知を図るとともに、積極的参加を促し、発音や原稿の準備など、必要な指導を行う。
- 10) スペイン語劇について、2024 年度も担当教員を中心に上演に向けて検討と準備を行う。

フランス学科

- 1) 昨年度に引き続き、学科内において定期的にミーティングを開催し、授業内容の検討ならびに科目登録・授業運営方法の点検を行う。また、今年度は教員 1 名が 8 月末まで留学

中のため、フランス語の教員配置がやや変則的になる。そのため、定期的に連絡および打ち合わせを行い、教育体制に不備が生じないようにする。

- 2) 2年次から専攻分けが行われているが、専攻間の人数の偏りが生じがちなため、可能な対処方法について学科内で引き続き議論する。また、3年次からのゼミ分けについてもよりよい方法がないかを議論する。
- 3) 履修ガイダンスおよび学び方講座の開催、オフィスアワーの設置、学科ウェブサイトやSNSの充実などを通じて学生の履修指導、留学支援、学習支援を継続する。
- 4) 学生の海外留学を促進するとともに、フランス語劇、各種フランス語スピーチコンテストなどフランス語を活かした各種課外活動への参加を奨励する。
- 5) フランス語教育の効果を測定し、その結果をさらにその後の教育に活かすため、実用フランス語技能検定、TCF、DELFFなどの外部語学試験の集団受験を促進する。
- 6) 昨年度に引き続き学科作成ウェブサイトの充実に努めるとともに、学科 Facebook の更新、オープンキャンパスや高等学校での出張授業により、学科の広報活動を行いつつ、学科の特長をさらにアピールするよう努める。
- 7) フランス語圏に関する専門的知識を有する専門家を招いて教員の研究・教育支援に資する講演会を（必要なら Zoom により）開催する。

ドイツ学科

- 1) 学科運営が円滑に進むよう、教員同士のコミュニケーションを密にするとともに、特定の教員に負担が集中しないよう学科業務を適切に分担する。
- 2) 授業の質向上、および教員の資質・能力向上のため、学科専任教員・外国語教育センター所属 L.I.教員・非常勤講師の間で、学生の学習状況や授業の進捗状況についてクォーター毎に議論し、学習環境の充実を図る。
- 3) 学科教員による卒業論文の相互評価制度については、学科独自のルーブリックを作成すべきか、するとしたらどのような内容のものであるべきかについての議論を行う。また、ドイツ語関連検定試験の受験者数・合格者数をさらに増やすため、学内で周知して受験をすすめるとともに、合格レベルを上げるための方法を検討する。
- 4) 前年度に引き続き、秋学期にドイツ人学生2名を招聘し、学科生との国際交流を活性化させる。また春学期には東京横浜独逸学園の生徒との交流も予定している。
- 5) ドイツ語弁論大会・暗誦大会の開催の活性化方法を模索するとともに、ドイツ語劇の継続的な体制の構築について検討する。ドイツ語劇に関しては、2024年度は本格的な上演を予定しているが、2025年度以降はどのようなあり方であれば持続可能であるかを十分に議論する。
- 6) 学科 HP を定期的に更新し、学外への情報発信のプラットフォームと位置づけ有効活用を図る。招聘学生の声など、これまで掲載していなかったものもあらたに導入したい。
- 7) 高校からの模擬授業依頼は可能な限り引き受け、学生の協力も得ながら、ドイツ学科の

魅力を積極的にアピールしていく。また、生成 AI が発達した時代に外国語を学ぶことの意義について高校生が考える機会を提供し、外国語学部進学への意欲を高める。

- 8) 学生交流センター団体 Kreis およびドイツ文化研究会など、学科生の課外活動への支援を継続する。
- 9) キャリア教育については、引き続きキャリア支援課と連携しつつ、学科生向けのキャリア入門講演会を開催し、キャリア意識の形成および向上を図る。また、VGJ（フォルクスワーゲングループジャパン）などの長期インターンシップの機会を学生に提供するとともに、新規企業を開拓する。

アジア学科

- 1) 引き続き外国語科目と演習科目に重点をおいて学生の到達度を確認する。外国語についてはアンケートを実施して各種能力試験の受験および合格状況を把握する。
- 2) 2021 年度の卒業論文判定会議で導入したルーブリックの改定の可能性も含めて検討を継続する。
- 3) 2023 年度に再開した「海外フィールドワーク A/B」の実施状況を点検して 2024 年度の円滑な実施に向けて準備を進める。
- 4) 効果的な学生指導ができるよう、引き続き学科教員間および学科教員と非常勤講師との緊密な連携を図る。
- 5) 2024 年度からスマートフォン対応に変更した学科作成ホームページ、および 2022 年度から運用を開始した学科公式 Instagram の活用方法を検討して、受験生や在學生に本学科の特徴を十分に伝えられるよう工夫する。
- 6) インドネシア語学習の意欲を高め、能力を向上させる一助として、2023 年度に再開したインドネシア語スピーチコンテストを実施する方向で準備を進める。
- 7) 中国・台湾およびインドネシアへの国費留学希望者に対する説明会や個別支援を継続する。
- 8) 2020 年度から始めた輔仁大学の学生との SNS を利用した交流プログラムを継続するとともに、学部の国際化推進事業の一環として学生を招聘して学科生との交流を一層充実させる。また、2021 年度から試行的に開始したが 2023 年度は中止となった BINUS 大学との交流再開について検討する。
- 9) FA.com など在學生の課外活動への支援を継続するとともに、これら在學生の協力を得て 1 年次生の大学生活を支援する体制を堅持する。
- 10) キャリア教育については、引き続きキャリア支援課と連携しながら 1 年次生および 2 年次生に対して講習の場を設けて、キャリア意識の形成および向上を図る。

以上